

病防第78号  
令和2年6月19日

各関係機関の長 様  
(農政担当)

岐阜県病虫害防除所長  
病虫害発生予察特殊報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表したの、指導上の参考にしてください。

## 令和2年度病虫害発生予察特殊報 第1号

令和2年6月19日  
岐 阜 県

1 病虫害名 ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda*(J.E.Smith)

2 発生地域 中濃地域

3 発生経過

侵入警戒を行っていたツマジロクサヨトウについて、美濃市(中濃地域)に設置したフェロモントラップにおいて、令和2年6月11日(木)に本種と疑われる成虫が捕獲された(図1)。農林水産省名古屋植物防疫所に同定を依頼した結果、本県では未発生のツマジロクサヨトウであることが6月15日(月)に確認された。

本種は令和元年7月に鹿児島県の飼料用トウモロコシほ場において国内で初めて確認され、令和元年度には、西日本を中心に21府県で現地ほ場における発生が確認された。このほか7府県でもフェロモントラップにおいて雄成虫が誘殺され、特殊報が発表された。

なお、6月16日(火)時点で、当該フェロモントラップの周辺作物(スイートコーン及びソルガム)においては本種幼虫の寄生は確認されていない。

4 形態及び生態

(1) 形態

成虫の開翅長は約37mm、雄の前翅は地色が褐色、中央部に斜めの黄色斑紋と翅頂に逆三角形の白色斑紋を持つ(図2)。終齢幼虫の体長は約40mmで、頭部に網目模様があり、頭部縫合線に沿って淡色になるため逆Y字状に見える斑紋を持つ。また、尾部に黒色斑点を持つ(図3)。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

(2) 生態

本種は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産で、暖地に適応した種である。熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。

(3) 被害

幼虫が植物の葉、茎、花及び果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する。

#### (4) 寄生植物

これまでのところ、国内ではイネ科作物（飼料用トウモロコシ、スイートコーン、飼料用ソルガム、サトウキビ、もちきび等）に本種幼虫の発生が確認されているが、その他のイネ科、ナス科、ヒルガオ科、マメ科など幅広い作物に寄生することが知られている。

#### 5 防除対策

- (1) 多発すると被害が拡大する恐れがあることから、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。
- (2) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合、速やかに病害虫防除所に連絡する。
- (3) 本県で本種の発生が確認された場合、植物防疫法第 29 条第 1 項の規定に基づく措置として、以下に示された薬剤の散布指導を行う。  
(農林水産省「ツマジロクサヨトウの薬剤防除に使用できる農薬一覧」)  
[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)
- (4) 薬剤散布が困難な場合は、早期刈取りによる青刈りサイレージ処理を実施するとともに、幼虫の分散を防ぐため、収穫後は残渣のすき込みを実施する。



図1 フェロモントラップに捕獲された雄成虫（美濃市）



図2 成虫（左：雄、右：雌 開長：約 37mm）農林水産省 HP より



図3 終齢幼虫（体長：約 40mm）農林水産省 HP より